

●テーマセッション(80分)

「コーポレートベンチャリングの新展開 – 理論の拡張と日本における実践の多様化 –」

◎新藤晴臣 (大阪市立大学大学院 都市経営研究科 教授)

橋本良子 (事業構想大学院大学 事業構想研究科 教授)

木川大輔 (東洋学園大学 現代経営学部 専任講師)

ワークショップ形式

[概要]

コーポレートベンチャリング(CV)に関する研究の歴史は、1960年代における米国の社内ベンチャー(Internal Corporate Venturing : ICV)に関する研究まで遡られるとされます。日本においては1980年代～1990年代に、大手メーカーを中心に社内ベンチャーが積極的に創出され、2000年代に入ると、ICT系を中心としたメガベンチャーによる、コーポレートベンチャーキャピタル(Corporate Venture Capital : CVC)投資が盛んに行われるようになっております。さらに現在では、CVの実施主体となる企業も大手メーカーやメガベンチャーに限らず、製薬業、通信業、航空業など、多様な産業に拡大しており、そこで採用されるCVの形態も、イノベーションと結びつくなど、複合化・多様化しつつあります。

本セッションでは、日本における新たなCV現象の位置づけとその方向性について議論することを目的としております。そのために本セッションでは、CVに関する先行研究の流れを確認しつつ、日本におけるCVの先端的な事例を紹介する予定です。具体的には、①大企業におけるICVのリニューアル、②メガベンチャーによるCVC投資、③外資系日本法人によるベンチャー企業とのアライアンスという3つの事例を紹介します。これら3つの事例を取り上げた理由としては、ICV、CVC投資、ベンチャー企業とのアライアンスという別個のCVの形態を採用している点と、いずれも最先端事例である点が挙げられます。これら3つの事例をベースにディスカッションを行うことで、日本における新たなCVの理論的位置づけを確認するとともに、その展開の方向性について、俯瞰していきたいと考えます。

[参加者へのメッセージ]

10月20日(日) 14:40～16:00 開催(C会場:1-303)

本セッションではCV理論の流れについて簡単な報告を行ったのち、代表者を含む3名の報告者により、日本におけるCVの3つの事例について報告を行います。その後、報告者3名がパネリストとなり、フロアとの間でディスカッションを行います。これらのディスカッションを通じて、日本における新たなCVの展開の方向性と、理論的位置づけについて、フロアの皆様とともに発見・共有していくべきと考えております。学会員の皆様の多様かつ深い知見を通じて、CVに関する理論の拡張に、少しでも寄与できればと存じます。ご参加頂いた皆様と貴重な意見交換の機会を持てますことを、報告者一同、心より楽しみしております。